



# 環境設備情報

- リサイクル
- プラント発注動向
- 業界ニュース
- ごみ処理
- 下水道
- 環境問題
- し尿処理

<http://www.sangyo-times.co.jp>

発行所 **産業タイムズ社**

本社 〒101-0021 東京都千代田区外神田5-5-4 第二日昌ビル  
TEL.03(3834)5131(代) FAX.03(3834)5130

大阪支社 〒540-0028 大阪市中央区常盤町2-3-16 高木産業ビル  
TEL.06(6945)0491(代) FAX.06(6945)0310

名古屋支局 〒460-0008 名古屋市中区栄5-8-14 万国ビル  
TEL.052(251)6871(代) FAX.052(263)4664

福岡支局 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2-19-17 トーカン第五ビル  
TEL.092(471)6780(代) FAX.092(461)0128

禁断転載・翻訳 <編集・発行人> 西尾 英剛

2007年(平成19年)12月25日(火曜日)第1639号

## バイオマス

コンティグ・アイ、刈り芝からのエタノール製造で事業発足記念会を開催 \_\_\_\_\_ 3

## 中国通信

日中政府閣僚、環境保護や省エネ分野での協力を合意 \_\_\_\_\_ 4

北京市、五輪対策で排ガス規制の新国家基準を導入、天然ガス車を普及へ \_\_\_\_\_ 5

山東省の青島市、五輪ヨット競技対策で水質汚染企業8社に改善指示..... 5

## 3Rニュース

福岡県、07年度のリサイクル施設整備費補助金交付先を環境施設に決定 \_\_\_\_\_ 6

## ごみ処理

青森県外ヶ浜町、ごみ処理施設整備で08年4月から発注仕様書作成へ \_\_\_\_\_ 7

所沢市、第2最終処分場新設で候補地の特定を急ぐ、11年度の着工目指す \_\_\_\_\_ 7

厚木愛甲環境施設組合、中間処理施設の建設候補地を見直し..... 8

岐阜市、次期最終処分場は現施設隣接地に決定、08年1月に基本設計委託 \_\_\_\_\_ 8

阿南市、現ごみ焼却場を移転新築、08年3月めどに実施手法などの方向付け..... 8

八代市、市清掃センター移転候補地を昭和同仁町に、地元説明会を開催 \_\_\_\_\_ 9

## 産業廃棄物

鹿児島県、産廃管理型処分場建設候補地の地質調査結果は問題なし \_\_\_\_\_ 9

## 斎場

青森県深浦町、深浦と大戸瀬の斎場を統合、09年度以降に設計着手..... 10

三条市、斎場の新設を計画、08年4月に建設工事の入札を実施..... 10

## 下水道

秋田県八峰町、沢目浄化センターを増設、08年度に機械設備などを発注..... 11

栃木県上三川町、上三川南部地区で農集排事業、処理場を09年度着工..... 11

## 統計・資料

日本産業機械工業会、07年10月の環境装置受注高は682億9700万円..... 12

[社告]..... 12

◇「環境設備計画レポート 2007年度版」好評発売中..... 16

## コンティグ・アイ、刈り芝からのエタノール製造で事業発足記念会を開催

(株)コンティグ・アイ (〒502-0857 岐阜市正木631-7、Tel.058-294-8091、鈴木繁三社長) は、ゴルフ場から大量に発生する刈り芝などのソフトバイオマスからエタノールをコマーシャルベースで生産できるめどが立ったため、2007年12月11日、建設会社、産業廃棄物処理会社、金融機関などを招いて「バイオエタノール事業発足記念会」を地元の長良川観光ホテル石金で開催した。同事業のキーマンである、岐阜大学応用生物科学部教授で同社役員でもある高見澤一裕氏が特別記念講演を行った。また、席上、08年2月設立予定のバイオエタノール事業会社の社名を初めて披露した。

「地産地消、地ビール、そして地エタノール」と題して行われた高見澤教授の記念講演では、開口一番、IPCCの第3次レポートによる世界のエネルギー供給予測を紹介、2050年にはすでにバイオマスエネルギーが首位に立っており、2100年には他を圧倒して石油エネルギーの6倍以上の供給量に達しているとの予測に、バイオマスエネルギーが持つ将来性と優位性を強調した。最後に、温室効果ガスの排出量(生産時と使用時)比較では、ガソリンの排出量に対してコーンエタノールは22%少なく、サトウキビエタノールは56%少ないが、さらに刈り芝などで造るセルロース系エタノールは

91%も少なく、ソフトバイオマス利用が地球温暖化対策に大きく貢献することになろうと話をつめた。

刈り芝や雑草などのソフトバイオマスはセミロース(ヘミセルロース)系のバイオマスに属する。デンプン系バイオマスよりもはるかに賦存量が多いが、構造的に酵素による糖化がデンプン系よりも難しく、今まで糖化率のアップが課題とされてきた。同社が得意とする、微生物と遺伝子操作で開発した酵素により、芝をデンプン系バイオマス並みに糖化できたことが今回の事業化の大きなポイントとなった。この酵素は高見澤教授と明治製菓(株)との共同研究によるもので、目下、特許を申請中である。同酵素技術は芝生に限らず、セミロース・ヘミセルロース系バイオマス全般に適用できる。

今回のキーテクノロジーはセミロース系バイオマスを効率的に糖化できる酵素技術にあり、糖化後の酵母によるアルコール発酵、蒸留、無水化を経てエタノールを生産する後工程は既存技術を応用するが、全体の生産システムにも特許を見



記念講演を行う高見澤一裕教授

据えた独自設計を導入することになっている。

実証プラントは、同社と環境ビジネスで提携関係にあり、今回の発足記念会を共催した大橋建設(株) (〒519-0155 三重県亀山市御幸町231-75、Tel.0595-82-8660、大橋尚貴社長)が所有する亀山市住山町に建設する。

08年2月に設立する事業会社名はトゥービー (too bee) (株)。Too beeは「この指とまれ」を意味する米国のスラングで、同事業への多くの参画を希望して滞米経験のある鈴木社長が命名した。新会社は、ゴルフ場のメンテナンスを手がける(株)日本グリーン (〒513-0826 三重県鈴鹿市住吉3-1-20、Tel.059-378-0154、三浦智社長)との3社共同出資により設立する予定で、プラント自体は08年6月に着工、同年9月の完成を目指している。新会社の設立準備室は大橋建設内に設置している。

実証プラントの処理能力は未定だが、周辺10カ所程度のゴルフ場を対象に実証試験を実施する考えた。刈り芝から造られたエタノールはゴルフ場の電動カートを動かすための自家発電機燃料に利用してもらおうと考えている。環境意識の向上に伴い、ガソリンで動くゴルフカートから電動カートへの転換が急速に進んでいることに対応するもので、併せて今まで無用の産廃として処分されてきた刈り芝が、逆に環境保全に寄与する有価物として見直されることによるゴルフ場全

体のイメージアップも狙っている。

(町谷)

## 日中政府閣僚、環境保護や省エネ分野での協力に合意

日中両国の経済関係閣僚らが一堂に会し、貿易や投資、金融などの問題を包括的に議論する「日中ハイレベル経済対話」が2007年12月1日、中国の北京市で開催された。日本側とは環境保護や省エネ分野で協力することに合意し、08年末までに東京で次回の経済対話を開催することを決めた。

07年12月1日、日中両国の経済関係閣僚らによる「日中ハイレベル経済対話」が北京市内で開催された。両国閣僚らは、人民元の為替レートやバブル経済など双方のマクロ経済政策にかかわる問題や気候変動、環境保護、エネルギー分野の協力、知的財産権の保護を含めた貿易、投資分野にかかわる問題、地域および国際的な経済問題などについて意見を交わした。

経済対話の終了後、日本側はプレスコミュニケ(報道文書)を発表。気候変動問題では、京都議定書後の次期枠組み構築へ向けて積極的に関与し、業種ごとに国を超えてCO<sub>2</sub>排出削減技術を普及させる「セクター別アプローチ」という手法を組み込むことで認識を一致させた。

また、公害対策と温暖化対策の双方に